

聞き、考え、行動して解決を

今回は、令和二年三月に秋田職業能力開発短期大学の電子情報技術科を修了し、現在はシステムエンジニアとして活躍されている田中恭平さんを紹介いたします。田中さんが所属するキャロルシステム仙

台株式会社は、宮城県仙台市に本社を構えるソフトウェア会社であり、平成二十二年の設立から現在に至るまでの約十五間にわたって、地元である仙台の企業を中心に、インタープライズシステムの開発に携わってきました。これまで、東北職業能力開発大学校応用課程に進学した学生を含め、多くの当校出身の学生をご採用頂き、現在も修了生がエンジニアとして活躍しています。

田中さんは、花輪高等学校（現在の鹿角高等学校）の出身で、平成三十年に当校に入校されました。田中さんは、

キャロルシステム仙台株式会社

田中 恭平 さん

秋田職能短大 電子情報技術科

(令和元年度修了)

高校卒業後に一度仕事に就いていましたが、技術者を目指し、改めて学び直すことを決意されました。元々システムやプログラムに興味があったことに加え、知り合いである修了生からの勧めがあったこととなり、当校を選んだきっかけとなったといいます。プランクがある中で受験は不安があつたそうですが、無事に第

一志望の電子情報技術科に合格できたことは、とても良い思い出であり、今でも印象に残っているそうです。

入校当初は、プログラミングが授業の中心となると考え、ていたそうなので、はんだ付け作業による基板の製作や、性能評価など、ハードウェア関連の授業が約半分を占めていることについて、戸惑いがあつたことでしょうか。しかし、製作した機器にマイクロ

コンピュータを組み込み、自作したプログラムを書き込んで、想定通りの動作をさせることができた時には、大きな感動があり、印象に残っているそうです。筆者から見ると、田中さんは、ハードウェア、ソフトウェア共に主体的に取り組んでくれる印象があつたのですが、その原動力は、この時感じた感動だったのかもしれないと思います。

現在、田中さんは上流工程（要件定義や企画書の作成・修正業務）を主として、一部下流工程（プログラミング・修正、テスト）も含め、システム開発の一連の流れを業務として行っています。入社後、初めての現場では、右も左も分からない状態で、与えられた仕事もすぐには理解できず、苦労したそうです。しかし、そこで立ち止まらず、「とにかく分からないことは、まどめて聞き、考え、行動することで乗り越えられた」と教えてくれました。そのような経験を経て、現在は上流工程の担当に加えて後輩の指導も担当しており、「今後はプロジェクトをまとめるリーダーを目指したい」と頼もしい言葉を頂いています。また、仕事だけではなく、休日には趣味の食べ歩きで、話題のお店を巡るなどしているそうです。公私のメリハリのついた、充実した社会人生活を送っています。

最後に、田中さんへ
講師 細井 遼太郎



秋田職業能力開発短期大学校
電子情報技術科
講師 細井 遼太郎